



（録画）
大井議員
一般質問

ごみ減量に取組むように迫る！

当局の前向き答弁引き出しました！

ごみ政策に取り組む姿勢と目標について



ごみ削減目標は、平成30年制定のゴミ処理基本計画より、今年3月制定の総合計画の方が後退。市民のごみ排出量が日本一少ない掛川市として、より高い意欲的な目標を持つべき。



今後のごみ量・ごみ質の変化などを、国や世界の動向も踏まえた調査結果と、今後積極的に取り組むプラスチックリサイクルも合わせ野心的な目標値を目指す。【市長】



ごみ減量の決め手：生ごみの分別・リサイクルを



家庭から出るごみの40%は生ごみ。生ごみの90%は水分であり、本来燃えない。生ごみの分別を！分別した生ごみは堆肥や有機肥料として活用を。やめてしまったコンポストやキエーロへの助成復活を。



生ごみを分別して堆肥などに有効活用すれば、大変有効。コストがかかるが、焼却コストの削減にもつながるので研究してゆく。コンポストやキエーロの助成は新たな施策を研究する。【協働環境部長】

事業系一般ごみの分別・リサイクル促進を



事業系ごみはごみの種類が限定され、家庭ごみと比べてもリサイクルしやすい。先進モデル事業所の登録制度のハードルが高いうえに、登録してもメリットがない事などを改善すべき。



反省している。制度に企業のインセンティブが必要だった。成功事例に学び、廃プラ循環法に基づく企業の役割を追求し、事業系ごみの減量も進める。【協働環境部長】

プラスごみの分別を徹底し、焼却施設建設費の交付金獲得を



国の方針転換により、プラスチックの分別をおこない、焼却炉を小さくすれば、焼却炉建設の助成率がアップし、建設費が減る。



プラスチック資源循環法により、分別回収すれば交付金が交付される。脱炭素社会の実現のために必要であり、積極的に検討する。【市長】

市民がゴミ削減によるメリットを実感できる施策を



生ごみのリサイクルで堆肥や有機肥料を作り、有機農業で使い掛川の農産物のグレードアップを。生ごみが入っていないゴミ専用袋を無料配布するなどして、メリットを実感してもらったらどうか。



生ごみの削減には大変効果がある。回収や処理のコスト、農業・環境両面における効果など研究する。無料ごみ袋配布は、市民のメリット実感や資源リサイクル上の有効性について研究する。【協働環境部長】

現在検討中の環境資源ギャラリーの今後のあり方にも、市のごみ減量化に取組む積極的な姿勢を反映させ、市民の協力も得て、持続可能な環境にやさしいごみ処理が行えるようにしたいものです。

9月定例会は8/31(水)～9/30(金)まで開会予定です。
一般質問【9/12(月)～9/14(水)】や2021年度の決算審議等を行ないます。



「補聴器の公的補助を求める掛川の会」が議会に請願や、市担当者と懇談をしてきました。

市民の皆さん署名も集めての請願が実ります。よい制度になるよう求めています。

6月定例会に先立つ予算決算特別委員会協議会の席上、市が来年度補聴器購入助成制度を創設することを明言。

市議団2名のみでした。この制度が来年10月から導入されると、小規模事業者などにはさらなる税負担がのしかかります。

請願（小笠掛川民主商工会が提出）への賛成は共産党会が提出）への賛成は共産党

◎インボイス制度の延期を求める意見書提出